

活動も新たな試みへ!

花ノ木

第 119 号

令和 6 年 7 月 28 日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

H.P <https://kyoto-hananoki.jp/>

第一病棟

2024年度の日中活動は、これまで通り新型コロナウイルス等の感染対策を取りながら、非日常を楽しみ、利用者さん一人一人に合わせた外出活動や楽しめる行事を計画しています。お誕生日の方には月ごとでお祝いの言葉掛けや、楽しめる誕生日会の実施、集団活動や個別活動については、業務改善として日々の中で活動の時間を作り出し、多くの入所者さんが楽しめる時間の提供をしていきたいと進めています。

5月に計画していたドッグセラピーは残念ながら新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生のため中止となってしまいました。落ち着いた頃に園芸グループでお米の苗を植えました。利用者さんと職員で笑顔いっぱい楽しみなで行いました。次は玉葱の収穫を予定しており、「まだかな、まだかな」と入所者さんも楽しみにしておられます。6月は、ひまわりの型紙に思い思いの色付けや文字を入れ病棟に飾り、

第二病棟

園芸活動については、今年度園芸グループを作り、土や水に触れ五感で季節を感じていただき、草花や野菜の栽培・成長を通して、日々の中で花の香りや植物の成長を感じ、目で楽しみ・食べて楽しめるような活動にしていきたいと考えています。今後も利用者さんの笑顔が見られる活動を行っていき、QOLの向上を図りたいと思います。

(生活支援員 石田 愛夕菜)



第二病棟では小集団活動で、病棟入り口を飾るため、6月の梅雨時期に鮮やかに咲き誇る紫陽花の花を作成しました。活動に参加している利用者さんに絵の具を見て色を選んでもらい、職員と一緒にスポンジや筆をしっかりと持ち、画用紙に向かって絵の具を

第三病棟

塗りました。より楽しんでもらえるように「ぼんぼんぼん」と声かけをしながら行いました。職員と一緒に筆で絵を描いている間は、しっかりと目を見て、画用紙についた色を見ておられました。筆だけでなく、スポンジを握って柔らかい感触を感じてもらおうと、「これは何?」というように表情の変化がありました。準・超重症児者の方の活動は、生活支援員だけでもできるようベッドサイドで実施することもあります。表情や体調を確認しながら、楽しんでいただけよう工夫をしています。色付けた画用紙は職員が花の形に切り取り紫陽花の花を完成させました。病棟入り口にトトロや七夕飾りと一緒に展示したので、ぜひ見に来てください。

(生活支援員 伊藤 麻弥)



5月9日に外出活動を行いました。今回の外出活動は亀岡市内をドライブ!天候も良く絶好のドライブ日和です。さあ、車に乗り込みいざ出発!

職員と一緒に景色を楽しみました。普段は病棟内で過ごし、なかなか外に出られない中でドライブ、皆さん集中した様子で窓からの景色に見入っておられ、その落ち着いた様子に職員も少し意外な驚きと発見がありました。

途中、淡路島バーガーとコンビニでジュースやデザートを購入しました。コンビニでは陳列されているたくさんの商品に目をキラキラ。今にも商品を手にとってしまいそうな勢いで熱心に眺めておられ、利用者さんと職員で話しながら商品を選び、花ノ木に戻りました。

天気良かったので持ち帰った昼食は中庭のバラソルの下で食べました。分厚い肉と野菜が挟まれた淡路島バーガーを皆さんあつという間に完食されました。少し強めの風が吹いていましたが、近くを通りかかった職員が話しかけるなど、ゆったりとした時間を過ごす事ができました。



天気にも恵まれ充実した外出活動となりました。今後も普段とは違う特別な時間を利用者さんと共に楽しんでいけたらと思います。

(生活支援員 岩本 舞)

第五病棟

第五病棟の日中活動にも少しずつコロナ禍前のような活気が戻ってきました。病棟での活動はスヌーズレン、手足浴、マッサージ、音楽遊び、絵本の読み聞かせや外気浴など個人のニーズに沿ったものから・・・時にはみんなが詰所前のフロアに集まってDVD鑑賞や感触遊び、季節に応じた作品作りなどを行っています。

また、天気の良い日には、数人ずつで屋外に出て外気浴や散歩をしています。花を見つけては季節を感じたり、しゃぼん玉を飛ばしては笑いあったり、楽しませてくれるなあと感じる時間です。



ミニ外活や外活もどんどん遠くへ、もっと楽しめる所へと計画を進めています。注入をされる方も食事や内服の時間調整を行うことで、ニーズに沿った所へ出かけられるように計画しています。また、ご家族が参加される外出も増えてきており、充実した時間を過ごして頂けているのではないかと思います。最近では京都市水族館にご家族2名、利用者さん2名、職員2名と6名の大所帯でワイワイと

楽しいひと時を過ごしてきました。これからもご家族・利用者さんのニーズを踏まえながら、生活に彩りが添えられるような時間を過ごせるよう創意工夫していきたいと思えます。
(看護師 田中 陽子)

はなのき通所

通所系の創作活動の紹介をします！主に金曜日に創作活動を実施し、月ごとのレクリエーション担当者を中心に、季節に合った活動を考えています。出来るだけ利用者さんの力が発揮できるように試行錯誤しながら工夫して取り組んでいます。



4月は「桜」をイメージして、創作しました。米袋をバラして筆やペイントローラーを使い茶・黒・白などの色を混ぜながら塗っていくと、米袋のシワが良い感じに桜の木の幹部分に演出してくれました。利用者の方も臥位姿勢で塗れるようにアーチ状の支柱の先に筆を付けて持ってもらい塗っていきます。桜の花びらも作成し、筆を持つことが難しい方には、(プラスチック製の)ファイルケースの中に画用紙と桜の色(赤・白・黄など)を塗ったビー玉を3〜4個入れ、職員と一緒に上下左右

に揺らしてもらい、綺麗な模様を描くことが出来ました。最後に桜の木や花びらを模造紙に張り付けて完成です。



5月の鯉のぼり、6月の藤棚作りでは、お花紙を破って柄の入った透明の袋に入れて鯉を作ったり、両面テープにお花紙を張り付けたりしながら藤の花を作りました。どの活動でも完成形をイメージして皆さんワクワクしながら取り組まれています。

通所の玄関先に、これらの作品を展示する事もあるので、通所に来られた際には、是非ともご覧ください。
(生活支援員 西村 雅年)

児童発達支援センター

令和6年度、児童発達支援センターは、新規の子どもたちを迎え、おひさま(児童発達支援)91名、ココはなのき(放課後等デイサービス)42名でスタートしました。

ココはなのきは、小学校1年生から3年生までの子どもたちを対象に、曜日ごとに『ことば』、『読み書き』、『SST(ソーシャルスキルトレーニング)』、『からだ』のうち、メインプログラ

ラムの比重を変えたアプローチで活動設定をしています。身体を動かしたり、ゲームをしたり、おやつを食べたり、タブレット教材を使ったりして、放課後を、楽しく過ごすことを通して、学校での集団生活、学習活動を全力で楽しむための「基礎づくり」に取り組んでいます。

SSTグループでは、6月から「ぼうけんゲーム」を始めました。TRPG(テーブルロールプレイングゲーム)を7回計画で机上ゲームと体力ゲームを取り組みます。自分の意見を発表する、友達の見解を聞く、相談することをねらいに子どもたちがワクワクするような活動内容を計画しています。ゲームに使う旗作りも、みんなやる気は十分で、個性的な旗が出来上がりました。どんな姿を見せてくれるか、職員も楽しみにしています。

また、センターのディスプレイ活動で「風車」を作りました。センター受付にも飾りますので、皆さん涼しげな風車で夏の訪れを感じてください。



(心理判定員 高橋 良子)

—これまでの経歴をお願いします。

関東出身で、東京生まれの千葉育ちです。ただ両親はどちらも兵庫(姫路)の出で、ほとんどの親戚がその近くに住んでいて、子供のころから関西圏を何度も訪れていました。それもあって大学(京都府立医科大学)からこちらに戻ってきた形です。今では京都住まいの期間のほうが長くなりましたが、言葉はいまだに標準語が抜けず、関西人になりきれしていません。

—診療科や専門は何ですか？

診療科は小児科です。もともと新生児医療や集中治療(NICUやPICUの世界)を志していました。大学院に入る頃から腫瘍学(がん診療)に強い興味をもつようになり、小児がんの研究で博士号をとりました。その後は急性期疾患の診療に携わることが多く、今は免疫/アレルギー分野や東洋医学を得意としていて、どちらも専門医資格を取得しています。

—思い出深い勤務のエピソードなどは？

駆け出しのころは要領が悪いうえとにかく忙しく、自分の時間がまったく持てませんでした。重症児の対応に追われて、あつという間に時間が過ぎて行きます。病院に泊まりこむことが多く、自宅に1週間帰れなかったこともありました。眠る場所がなくて会議室にパイプ椅子を並べて数時間仮眠し、すぐ起きて現場に戻る、といった経験が懐かしく思い出されます。

—医師を目指したきっかけは何ですか？

母が看護師だった関係で、その勤務先などを訪れて医療現場に触れる機会が時々ありました。医師や他の医療従事者の姿を見て、感銘や憧れの念を小さいころから持っていました。困っている人の助けになるような仕事につき

シリーズ「この人にきく」

医師 和泉 守篤 さん

今回は、昨年4月から診療部次長として着任された和泉 守篤 先生にお話を伺いました。



それにも増して職員間また入所者の方々との人間的なつながりの深さ、アットホームさがとても印象的で、今でもそれは強く感じていきます。

—趣味は何ですか？

(趣味といえるかわかりませんが)未

たいとずっと思っていましたので、ほとんど迷うことなく医師、医学の道を選びました。

—花ノ木医療福祉センターに対するイメージはどうですか？

昨年に赴任した当初は、職員数がずいぶん多いことに驚きました。しかし

知の事がらに惹かれる探求心は我ながら強いほうだと思えます。中でも歴史分野が好きで、その関係の本を読むとわくわくします。特に世界遺産関連を含めて、世界史が大好きです。考古学的な視点で個々の史跡をめぐること興味がありますが、各時代の大きな流

れを俯瞰して考えるような歴史観にとでも引きつけられます。

—今後チャレンジしてみたいことがあれば教えてください。

このところ時間的余裕が少しくなってきたので、それを活用してボランティア活動などに参加するようにしています。たとえば最近では能登の震災現場へ数回にわたり家屋片付けの手伝いに行きました。それは医療とは関係ない活動ですが、医療面でも何かできることがないものか？と思索しているところです。別の分野でもいろいろチャレンジできたらいいのですが。

—最後に、花ノ木職員に向けてひとことをお願いします。

職員お一人お一人にとっても大きなポテンシャルを感じています。また先ほども申しましたが、皆さまの間の絆は花ノ木の大きな財産だと思います。これを大切に、さらに育てていけたら素晴らしいでしょう。私自身も微力ながらそのお役にたてれば本当に感謝です。

○インタビューを終えて(編集委員から)

普段、先生の利用者さんとの関わりや職員との会話でも、親切で物腰柔らかく対応されているのをよくお見かけしていましたが、今回のインタビューでも、私たちの質問に丁寧に答えてくださり、とても親しみやすさを感じました。貴重な時間を本当にありがとうございました。

(編集委員…灰川史朗 船越勇紀)

○令和5年度会計決算が6月5日開催の理事会、6月21日開催の評議員会において承認されましたので、定款第32条の規定により公告します。

令和5年度 資金収支計算書

(自)令和5年4月1日 (至)令和6年3月31日

(単位：円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	障害福祉サービス等事業収入	928,397,000	879,358,409	49,038,591	
	医療事業収入	1,365,798,000	1,359,198,724	6,599,276	
	喀痰吸引等研修事業収入	550,000	158,000	392,000	
	経常経費寄附金収入	10,000	105,000	△95,000	
	受取利息配当金収入	16,157,000	27,992,084	△11,835,084	
	その他の収入	2,131,000	3,087,191	△956,191	
	事業活動収入計(1)	2,313,043,000	2,269,899,408	43,143,592	
	支出				
	人件費支出	1,724,975,000	1,675,990,928	48,984,072	
事業費支出	248,734,000	235,237,461	13,496,539		
事務費支出	167,000,000	159,769,031	7,230,969		
支払利息支出	731,000	729,416	1,584		
事業活動支出計(2)	2,141,440,000	2,071,726,836	69,713,164		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	171,603,000	198,172,572	△26,569,572		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	200,000	5,200,000	△5,000,000	
	施設整備等寄附金収入	10,000	1,030,000	△1,020,000	
	施設整備等収入計(4)	210,000	6,230,000	△6,020,000	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	13,692,000	13,692,000	0	
固定資産取得支出	15,943,000	17,647,906	△1,704,906		
ファイナンスリース債務の返済支出	2,178,000	1,827,540	350,460		
施設整備等支出計(5)	31,813,000	33,167,446	△1,354,446		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△31,603,000	△26,937,446	△4,665,554		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	16,927,000	0	16,927,000	
	その他の活動収入計(7)	16,927,000	0	16,927,000	
	支出				
積立資産支出	151,927,000	100,000,000	51,927,000		
その他の活動支出計(8)	151,927,000	100,000,000	51,927,000		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△135,000,000	△100,000,000	△35,000,000		
予備費支出(10)	5,000,000	—	5,000,000		
	0				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	0	71,235,126	△71,235,126		
前期末支払資金残高(12)	0	607,674,130	△607,674,130		
当期末支払資金残高(11)+(12)	0	678,909,256	△678,909,256		

令和5年度 事業活動計算書

(自) 令和5年4月1日 (至) 令和6年3月31日

(単位：円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	備考
サービス活動増減の部	収益				
	障害福祉サービス等事業収益	879,358,409	919,526,723	△40,168,314	
	医療事業収益	1,359,198,724	1,366,473,961	△7,275,237	
	喀痰吸引等研修事業収益	158,000	54,000	104,000	
	経常経費寄附金収益	105,000	0	105,000	
	その他の収益	2,584,691	2,864,890	△280,199	
	サービス活動収益計(1)	2,241,404,824	2,288,919,574	△47,514,750	
	費用				
	人件費	1,686,338,928	1,688,189,338	△1,850,410	
	事業費	235,964,970	244,372,228	△8,407,258	
	事務費	159,769,031	142,838,373	16,930,658	
減価償却費	129,509,538	132,189,866	△2,680,328		
国庫補助金等特別積立金取崩額	△32,265,296	△31,902,414	△362,882		
サービス活動費用計(2)	2,179,317,171	2,175,687,391	3,629,780		
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	62,087,653	113,232,183	△51,144,530		
サービス活動外増減の部	収益				
	受取利息配当金収益	27,992,084	10,611,041	17,381,043	
	その他のサービス活動外収益	502,500	568,900	△66,400	
	サービス活動外収益計(4)	28,494,584	11,179,941	17,314,643	
	費用				
	支払利息	729,416	819,343	△89,927	
サービス活動外費用計(5)	729,416	819,343	△89,927		
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	27,765,168	10,360,598	17,404,570		
経常増減差額(7)=(3)+(6)	89,852,821	123,592,781	△33,739,960		
特別増減の部	収益				
	施設整備等補助金収益	5,200,000	2,850,000	2,350,000	
	施設整備等寄附金収益	1,030,000	4,745,000	△3,715,000	
	固定資産受贈額	0	200,000	△200,000	
	特別収益計(8)	6,230,000	7,795,000	△1,565,000	
	費用				
固定資産売却損・処分損	76,909	8,011	68,898		
国庫補助金等特別積立金積立額	5,200,000	2,850,000	2,350,000		
特別費用計(9)	5,276,909	2,858,011	2,418,898		
特別増減差額(10)=(8)-(9)	953,091	4,936,989	△3,983,898		
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	90,805,912	128,529,770	△37,723,858		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,524,818,642	1,526,288,872	△1,470,230	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,615,624,554	1,654,818,642	△39,194,088	
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)				
	その他の積立金積立額(16)	100,000,000	130,000,000	△30,000,000	
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,515,624,554	1,524,818,642	△9,194,088		

貸借対照表

令和6年3月31日 現在

(単位：円)

◆資産の部			◆純資産の部		
流動資産	791,245,285	ソフトウェア	16,041,300	基本金	462,820,387
現金預金	402,354,806	退職給付引当資産	868,656	基本金	462,820,387
事業未収金	339,180,538	その他の積立資産	2,267,112,939	国庫補助金等特別積立金	359,226,224
未収補助金	41,966,810	資産の部合計	4,979,566,326	国庫補助金等特別積立金	359,226,224
医薬品	3,334,255	◆負債の部		その他の積立金	2,267,112,939
立替金	2,373,812	流動負債	218,222,666	その他の積立金	2,267,112,939
前払費用	2,035,064	事業未払金	28,168,582	次期繰越活動増減差額	1,515,624,554
固定資産	4,188,321,041	1年以内返済予定設備資金借入金	13,692,000	次期繰越活動増減差額	1,515,624,554
基本財産	1,807,528,647	1年以内返済予定リース債務	1,339,800	(うち当期活動増減差額)	90,805,912
土地	481,499,760	未払費用	43,139,212	純資産の部合計	4,604,784,104
建物	3,702,788,743	預り金	470,688	負債及び純資産の部合計	4,979,566,326
減価償却累計額	△2,376,759,856	職員預り金	34,980,267		
その他の固定資産	2,380,792,394	仮受金	△199,175		
構築物	32,694,190	賞与引当金	94,189,092		
車輛運搬具	24,286,232	未払消費税	2,442,200		
器具及び備品	374,388,962	固定負債	156,559,556		
建設仮勘定	7,942,000	設備資金借入金	152,480,000		
減価償却累計額	△347,973,685	リース債務	3,210,900		
有形リース資産	5,431,800	退職給付引当金	868,656		
		負債の部合計	374,782,222		

掲示板

新型コロナウイルス感染症 クラスターを経験して

2020年1月日本国内で初めて感染が確認されたから4年半が経過し、昨年5月に、感染症法上2類から5類に移行しました。Withコロナと言われて久しいですが、入所しておられる方にとって大きな脅威であることは変わっていません。

当センターでは、今年4月末から6月初旬にかけて入所者職員合わせて89名の大きなクラスターを経験しました。発症直後より、感染拡大防止に取り組みましたが、感染力の強さは予想を上回り、多くの方は軽症で経過しましたが、一部の方は誤嚥などによる肺炎で重症化し他院で治療をお願いしたケースもありました（その後全員軽快されています）。同時に職員の罹患も相次ぎましたので、全病棟あげて協力体制をとり対応しました。

この経験から、極力水際で防ぐこと、発症時には早期の対応が必要であることを痛感しました。改めて、入所者ならびにご家族、関係者の皆様には大変ご心配をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

周知の事ではありますが、新型コロナウイルスへの感染は、ウイルスを含む飛沫が口や鼻などの粘膜に触れること、またウイルスがついた手指で、口や鼻や眼の粘膜に触れることで起こります。私たちは、重度の障害をお持ちの方々の医療・看護・介護に携わりますので、日常から濃厚に接触する機会が高い

という特性があります。このことから、感染症が発生した場合、容易に感染が拡大することが考えられ、ウイルスの特性を考慮して日常生活及び業務に携わり、安全な生活を提供できるよう今後も努めていきます。

（看護生活支援部 次長 荻原芳子）

花ノ木の動き

（令和六年一月一日〜令和六年六月三十日）

- 1 / 4 仕事始め
- 2 / 7 所内研修「メンタルヘルスケア」
- 3 / 2 所内研修「後期医療安全」
- 4 / 1 所内研修「出張報告会」
- 5 / 8 医療管理棟等防災訓練
- 6 / 5 令和6年度新採内定者研修
- 7 / 12 所内研修「第13回事例研究発表大会」
- 8 / 10 所内研修「理事長講話」
- 9 / 16 所内研修「防災設備・美化活動・リフト車取扱」
- 10 / 12 慰霊祭
- 11 / 17 所内研修「系統理解Ⅰ」
- 12 / 16 医療管理棟等防災訓練
- 13 / 12 「車いす操作・消火器取扱」
- 14 / 5 所内研修「系統理解Ⅱ」
- 15 / 21 理事会
- 16 / 12 所内研修「新規管理職員等」
- 17 / 12 医療管理棟等BCP訓練
- 18 / 21 評議員会
- 19 / 27 非常食訓練

ありがとうございます
ごぞいまして
寄付・寄贈（敬称略）

◎寄贈

亀岡市社会福祉協議会（手指消毒液、トイレトペーパー、ティッシュペーパー、タオル等）
京都信用金庫亀岡支店（ポータブルチェア）

編集後記

今年度から編集委員に加わりました。船越と申します。

さてさて、誌面では初めましてなので、少しばかり自己紹介をさせていただきます。花ノ木に大卒で就職して○年、その間旧第三病棟や通所を経て、計算すれば8年ほど所属した第三病棟を離れて、今年の3月より第五病棟に所属しています。医療的ケアが必要な超重症児者、準超重症児者のご利用者を受け持つのは初めてのことなので、右往左往しながらも必死に喰らいついていく日々を送っています。

そんな自分は休日は何をしているのか？どちらかというと外に出たがるタイプで、最近では某航空会社のアプリ片手に電車やら車やらに乗ったり、歩き回ったりしてポイントを獲得していく…なんてことをやっています。あと趣味の1つに旅行があります。北海道から九州へと今まで国内あちらこちらに赴きましたが、気に入って足繁く行っているのが沖縄です。特に宮古島は景色に惚れ込み、9年前から途中コロナ禍にも負けず、毎年欠かさず通って（？）います。今この編集後記を執筆している時点では旅行前ですが、誌面が出る頃には「ゆめのような旅」を終えて、余韻に浸りながらも次の非日常に向けて日常を頑張ろうと奮闘しているのではないのでしょうか。（台風よどうか来ないで！）

こんな自分ですが、今後ともよろしくお願いいたします。

（編集委員 船越勇紀）